

MySQL 5.1.59 リリースノート（日本語翻訳）

機能の追加または変更

- 現在は、`--with-ndbcluster` オプションを `configure` スクリプトに指定すると、5.1 に搭載されている MySQL Cluster のバージョンが保守の対象ではないことを示す警告が表示される（代わりに別の MySQL Cluster ディストリビューションを使用する必要がある）（Bug #49093、Bug #11757091）。

修正されたバグ

- **InnoDB** ストレージエンジン: この修正により、InnoDB テーブルの `VARCHAR(N)` カラムの操作パフォーマンスが向上する。ここで `N` は大きな値として宣言されるが、テーブルの実際の文字列値の長さは短い（Bug #12835650）。
- **InnoDB** ストレージエンジン: InnoDB テーブルの `DROP TABLE` コマンドは、テーブル圧縮、パーティショニング、および大きなバッファプールを組み合わせた構成で、速度が非常に遅くなる可能性があった（Bug #12635227、Bug #61188）。
- **InnoDB** ストレージエンジン: 使用されていない関数は、論理を明確にするため、小さなトランザクションに関連する内部 InnoDB コードから削除された（Bug #12626794、Bug #61240）。
- **InnoDB** ストレージエンジン: InnoDB プラグインから削除された「`random read-ahead`」機能を現在再び使用できる。この機能は特定のワークロードにのみ有用なため、デフォルトではオフになっている。オンにするには、`innodb_random_read-ahead` 構成オプションを有効にする。この機能は、場合によりパフォーマンスを向上させたり低下させたりするので、この設定を使用する前に、設定を有効および無効の両方でベンチマークを実行する（Bug #12356373）。
- パーティショニング: パーティションドテーブルの自動増分カラムが、書き込まれていないときにもチェックされていた。デバッグビルドでは、これが原因でサーバがクラッシュする可能性があった（Bug #11765667、Bug #58655）。
- 空文字列のオプション解析コードによってメモリリークが発生した（Bug #12589928）。
- レプリケーション: 破損したテーブルマッピングイベントの処理を行うと、サーバがクラッシュする可能性があった。これは、Bug#56226 で発生する場合と同じで、イベントによって別々のテーブルが同じ ID にマップされる場合に、特に発生しやすかった。

現在は、サーバによりテーブルマップイベントが適用される前に、そのテーブルが異なる設定でマップされていたかどうかチェックされる。もし該当する場合には、エラーが発生し、スレーブ SQL スレッドは停止する。テーブルが同じ設定でマップされていた場合、あるいはフィルタリングルールに無視されるようにテーブルが設定されている場合、動作は変更しない。イベントはスキップされ、ID はチェックされない (Bug #44360、Bug #11753004)。

Bug #11763509 も参照。

- 新旧どちらのバージョンのテーブルも、カラムのデータタイプに関して構造がまったく同じである場合、[ALTER TABLE {MODIFY|CHANGE} ... FIRST](#) がカラム名の変更しか行わなかった。その結果、カラム名とカラムデータのマッピングが正しくならなかった。古いバージョンとまったく同じ構造で新しいバージョンのテーブルを生成するための [ALTER TABLE DROP COLUMN ... ADD COLUMN](#) ステートメントでも、同様のことが発生した (Bug #61493、Bug #12652385)。
- [lower case table names](#) の値が 1 または 2 で、データベース名に大文字小文字が混在している場合、そのデータベース名が含まれた完全修飾名でストアドファンクションを呼び出すと失敗した (Bug #60347、Bug #11840395)。
- WHERE 句で決定的なストアドファンクションを使用して SELECT DISTINCT を指定すると、誤った結果になる可能性があった (Bug #59736、Bug #11766594)。
- [MyISAM](#) テーブルで、正しくないデータをインデックス付きの GEOMETRY カラムに挿入しようとする、テーブルが破損する可能性があった (Bug #57323、Bug #11764487)。
- ENGINE オプションを指定しない [CREATE TABLE](#) は、実行時ではなく解析時にデフォルトエンジンを判別していた。そのため、このステートメントがストアドプログラム内で実行され、その間にデフォルトエンジンが変更されていた場合は不正な結果を導いていた (Bug #50614、Bug #11758414)。
- データベース名で限定された名前を使用するストアドルーチンのロードと、そのデータベースの削除の間に競合があるため、以下のような誤ったエラーメッセージが出力された。The table mysql.proc is missing, corrupt, or contains bad data (Bug #47870、Bug #11756013)。
- RPM パッケージを使用してアップグレードを行うと、test データベースが再作成されていた。これは、このデータベースがすでに DBA により削除されていた場合は適切ではない (Bug #45415、Bug #11753896)。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。